

1 1 職員研修会

考查期間の午後に2回の職員研修を行った。アクティブラーニングについて学び実際に体験した各研修会の概要を紹介する。

1) 第1回AL研修会

a) 講師の紹介

産業能率大学経営学部 鈴木建生教授

高校国語科教師として35年勤務、2014年4月より現職。高校では主に進路指導を担当し、多くの困難を抱える若者のキャリア教育を研究実践してきた。キャリアカウンセリングではコーチングスキルを活用し、ひとりひとりのモチベーションを引きだし、キャリア形成支援を行う。また、キャリア教育の根幹をなす授業改善に取り組み、協同学習、アクティブラーニングの啓蒙に努めている。(産業能率大学HPより)

b) 内容

6月12日本校保護者と職員37人参加のもと90分の研修を行った。「思考を深めるアクティブラーニング(以下「AL」)入門」として3つの目標が提示され、その講義・演習が行われた。1つ目はALとは何かを理解すること。コーチングとミニセッションなどを取り入れた様々な協同学習を体験して振り返りを行った。その体験からALとは「一方的な知識伝達型講義を聴く学習を乗り越え、書く・話す・発表するなどの活動への関与とそれに伴って生じる認知プロセスの外化という能動的な学習を行うこと」と学んだ。次に現代社会においてAL型授業の必要性を理解できること。最近の授業改革の情報を基に、知識基盤社会を生きぬくために高校生活で協同的利他性、学び合える力、助け合える力を身に付けさせ課題解決能力を高めるためであると学んだ。最後に「私のAL型授業」を構成できること。教員同士でALを体験し、授業で実際に取り入れる際の手法や注意点を教えて頂き自分の授業への繋がりを考える時間が作れた。これが今年度のAL型授業実践にも影響していると考えられる。

c) 教員の感想(一部)

- ・今まで曖昧だったALについての認識が変わった。今日からどんどんチャレンジしたい。
- ・実際に生徒の立場で体験することで受動的学習との差を感じた。取り入れるべきだ。
- ・とても効果的なことは分かるが生徒に基礎や対話力が身に付いていないとできない。
- ・理系の科目では一人で集中して解く時間の方が大切だと思う。

2) 第2回AL研修会

a) 講師の紹介

産業能率大学経営学部 小林昭文教授

埼玉県公立高校教諭として25年間勤務し定年退職後、2014年4月より本職に就く。高校教諭時代には、カウンセリング、コーチング、アクションラーニング(質問会議)、メンタリングなどを学んで、教育相談、キャリア教育、授業改善などに力を注ぐ。特に2007年度から、当時は不可能と言われていた高校物理の授業をAL型授業にすることに成功し、その研究・実践・啓発活動を続けている。(産業能率大学HPより)

b) 内容

9月28日職員30人参加のもと3時間の研修を行った。「AL型授業の意義・効果・始め方～キャリア教育・生徒指導等を教科科目の授業に埋め戻す～」として実際に小林先生の授業を受ける形でAL型授業を体験した。小林先生の「熱と温度」の講義を受け、教員間で協同学習を行いながら物理の問題を解いた。正解へのプロセスを学び合うことで専門外の教員でも物理の内容が理解でき、AL型授業の効果が多くの教員に実感された。

特に、AL型授業成功のために以下のようなことをアドバイスして頂いた。

- ①グループ分けを考慮し、教え過ぎない声掛けをする。
- ②生徒の達成感、教員からの評価の為に演習問題、発表、小テストなどを取り入れる。
- ③リフレクションカードを記入させるなど、授業の復習と生徒状況の把握を行う。
- ④復習テストでは全員が満点をとれるようにすることで生徒に達成感を持たせる。
- ⑤問題演習の最後に難易度の高い問を入れてやる気を引き出す

また、現在の授業形態に至るまでの経緯も説明して頂き、先生が悩みながら様々な試行錯誤をくりかえされたことが理解できた。こうした意味で自分の授業形態を見直し、疑問や発見に気づくことができた貴重な時間となった。研修後も小林先生は多くの教員の疑問に答えて頂いた。

c) 教員の感想(一部)

- ・ノートを写すだけの授業から脱却するためにとっても参考になる時間でした。
- ・今までよりもAL型学習が身近なものに感じた。これからどんどんチャレンジしたい。
- ・物理(理系)の授業でも協同学習を行う状況とモチベーションを教員が作れば成功する。
- ・教え合ってみんなで解けると一人で解くときと違う喜びがあった。授業でやりたい。
- ・とても魅力的な研修だったが本校の生徒の実態に合うかよく吟味してから取り組みたい。
- ・日々の業務で精一杯なのに授業の準備の時間がこれ以上増えるのは厳しい。



【第1回AL研修会の様子】



【第2回AL研修会の様子】